

令和 6 年能登半島地震における災害ボランティアセンター派遣活動報告会兼協働型災害ボランティアセンター運営研修における被災地社協職員現地状況報告(令和6年11月19日)

【現地状況報告】(現地からオンライン)

石川県輪島市社会福祉協議会 田中事務局長

石川県輪島市の社会福祉協議会の事務局長をしております田中です。

この度の震災では、群馬県社会福祉協議会の皆さんから大変なご支援をいただいておりますことに心から感謝申し上げます。ありがとうございます。

群馬県の皆さんには、5月2日から第10クールで、44名の方がそれぞれご参加をいただいております。

石川県の輪島市の概要を簡単に説明いたします。輪島市は、旧門前町と旧輪島市が合併しまして、平成18年、今から19年前、人口3万4000人あまりの新市となりました。世帯数13,000戸でした。高齢化率が35%。旧門前町は既に高齢化率42%を超えておりましたが、今は、市全体で50%弱ぐらいです。面積は426km²で、海岸線は82kmです。農林漁業の町ですが、観光が主な産業です。輪島塗があって、里山の市です。観光名所としては、輪島の朝市、それから千枚田、門前町にある総持寺祖院、町野町にある時国家といったところが観光名所です。

能登半島地震をきっかけに人口が1880人余、減少しています。10月1日現在の人口ですが、11月1日現在では約100人ほど人口が増えております。

1月1日午後4時10分にマグニチュード7.6の地震が発生しました。最大震度7。家屋の損壊、道路の被害が多発し、避難所スペースも不足し、電気、水もないという状況になりました。

私は、震災当初のときには、家が門前町にありますので、門前総合支所という市役所の建物があり、そこで一晩明かしたのですが、1月1日だったために、翌朝、炊き出しとか、支援物資とか、一切来なかったので、みんな、自分の家に帰って、お正月のお餅だったり、そういう食べるものがあれば、それを取ってきてストーブの上でお餅を焼いて食べたという記憶がございます。

私は1月3日に輪島市の社会福祉協議会の事務所に来ましたが、旧門前町から輪島の事務所までは30分あまりで来ることができるのですが、今回の地震で、トンネルが崩落し、その前後の道路も崩落してしまいました。山も崖崩れで崩れてしまい、4時間半ぐらいかかれないと、輪島に到着できないということで、お昼の12時過ぎに出発し、この事務所に着いたのは夕方4時半でした。そんなこともあり、大渋滞が発生しているということで、石川県知事は、「不要不急の方々は、石川県の方に来ないでください」というような、お知らせをする事態になっております。

死者150名。全壊家屋、半壊以上の家屋が6159軒です。人が住んでいる家屋は住家の

60%あまりです。私たち社協の職員も、2人に1人は住まいが半壊以上となり、避難所からこの事務所に通勤したり、車中泊しながら出勤したりという状況で、皆が大変苦労しました。

この輪島はそんな状況です。今はもうマンホールは、地面に収まっていますが、発災当初はマンホールが飛び出した状況でした。家屋も崩れて、どうにも車が通れませんでした。

輪島朝市の火災現場は、大体1月1日に燃えましたが、それから3日ぐらい経ってようやく消しとめられて、5月の半ばぐらいまでずっとこのような形でございました。多くの車も家屋の下敷きになるなどして出せないという状況もありました。

鹿磯漁港付近を含め、海岸線は82kmありますが、その海岸が隆起しました。最大4m隆起しました。隆起によって砂浜が広がってしまいました。本当であればテトラポットのところは海でした。その海が全部消えていました。

そして、大雨の被害です。9月20日から雨が降り、20日夜はそうでも無かったですが、21日の朝8時から11時までの間に、100ミリを超える大雨が降りました。21日午前中には線状降水帯が発生し、特別警報が発表され、1ヶ月平均の2倍を超える雨が1日の間に降ってしまいました。その結果、亡くなられた方は10名、負傷者35名。全壊家屋も10棟となりました。

全壊家屋、被災家屋がある中、仮設の住宅も、床上浸水、床下浸水となりました。ようやく仮設住宅に住むことができた方々が、またさらに被害を受けてしまいました。

今、輪島市では、応急仮設住宅を45団地建設しております。2897戸の仮設ができ上がっていますが、192戸が床上浸水で使えなくなり、また追加で、新たに仮設団地を4団地、264戸を建設中です。

避難の状況ですが、ようやく9月いっぱい落ちつくかと思われましたが、この大雨で、また避難所が20ヶ所開設され、避難者数は406人を超えております。

大雨で道路が決壊したり、橋が落ちたり、ということで通行止めの箇所がさらに発生し、孤立集落が23ヶ所、536人の方々が、孤立集落となっており、避難所にヘリコプターで避難する形となっております。

地震ですごく揺れた地面に雨が降ったので、ため池や土砂ダムが決壊し、大変な被害になりました。

仮設住宅に雨が降ったときは、車も水没し使えない状態になりました。

輪島市内の町野地区では、山から流木が流れてきて家屋に押し寄せてきました。流木に加えて、土砂も流れ着きました。

市内中心部には、河原田川がありますが、その川が氾濫し、低いところに水が回りました。ボランティアさんには、その土砂や泥を掻き出してもらいました。

家庭からは、濡れて使えなくなった畳が運び出されました。

水害の場合は、地震の場合とは違い、泥を掻き出しても、床板をめくると床下に泥が蓄積されていて、その泥も出さないと困る状態となっております。

輪島市災害ボランティアセンターですが、毎朝、朝礼をしています。社協の皆さん、お手

伝いの皆さんなど、ひところ、25～26人の皆さんに来てもらい、ボランティア活動を推進しており、毎朝、ボランティアバスが来ましてボランティアの受け付けをさせてもらっています。

ボランティアさんにはオリエンテーションを行い活動の説明をします。

ボランティア活動から帰ったら、水害の場合、泥などが付いていると衛生上よくありませんので、道具は必ず洗って綺麗にしてから帰っていただくようにしております。

ご支援もありがとうございます。

今日現在、ニーズが6931件あります。

私たちは、そのニーズの91.7%をこなさせていただいております。

輪島のボランティアセンターの特徴ですが、炊き出し支援は、私たち社協では行っていません。炊き出しは、ピースポートさんに担っていただいております。私たち社会福祉協議会では、ボランティアセンターの運営をメインにやっております。今回は、ニーズを受け付け、現地調査に出向いて、マッチングし、実際にボランティアさんに入らせていただくための作業を、以前から話を聞いていたクラウドで作業する「キントーン」で行っています。

それから、私たちが何も話さなくとも、ブロックで派遣されてきた各地の社協の皆さんが独自にマニュアルを作って進めていただいて、ご支援いただいているというところが、すごくありがたかったと思っております。社協にしかできない支援、それから社協職員だからこそできる支援ということも、私たちはすごく共感できるところだなと思っております。受援力、助けを求める力も必要です。

もう、正直言って、今回の地震は被害の程度が余りにも酷く、何をすれば良いか、どうすれば良いかということも、私たちは分かりませんでした。でも、各地からの社協職員の皆さんの手助けのおかげで、今日まで少しずつですが、復旧してきております。

おかげさまで、昨日では、ボランティアに来てくださいというニーズの件数も1桁台に収まるようになってきました。

ボランティアさんには、一般のボランティアさん以外に、技術系のボランティアさんがおられて、大工仕事や建築関係など、重機を扱ってボランティア活動をしていただいております、私たちの仕事の半分以上、手助けをしていただいております。

今回の地震では、支援Pの皆さんのお陰、技術系ボランティアの皆さんのお陰、もちろんブロック社協の皆さんのお陰、それから、一般のボランティア参加者の皆さんのお陰があっての上で、私たちは何とか今日まで少しずつ復旧してきているのが現状です。

本当にご支援をいただきありがとうございます。私からのご報告は以上になります。